ONE PIECEの世界に転生

鷹の爪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＯＮＥ　ＰＩＥＣＥの世界に転生

【Ｎコード】
Ｎ１４３６Ｚ

【作者名】
鷹の爪

【あらすじ】
主人公の翼（つばさ）は、
ある日、自分の書こうとしていた二次小説の主人公に転生する。
原作に大幅な介入はしません。
作者は初心者なので過度な期待をしないで下さい。

転生？

「あーぁ　今日も疲れたなぁー。」

ガチャッ

「ただいま。」

「お帰り。」

台所から母さんの声がする。

俺の名前は翼（つばさ）　高校3年生だ。
俺はこの物語の主人公なんだ。

「とか現実逃避してる場合じゃねぇんだよなぁ、
受験勉強しなきゃいけねーんだった。」

「ふぅー　一段落ついたし休憩すっかな」

俺はベッドに散らばった漫画『ＯＮＥＰＩＥＣＥ（ワンピース）』を適当に手に取り読み出した。

「やっぱロブ・ルッチつえぇな。」

「ホントおもしれぇよな。」

いいよなぁ行ってみてぇよワンピースの世界。

「月歩（ゲッポウ）」とか「トリトリの実」の能力使ってノリノリで空とか飛び

てぇなぁ。

突然だが俺は今、二次ファンでワンピースの小説を書こうとしている。

あらすじはこんな感じ。
物語の主人公、ウィンは「トリトリの実」モデル“鷹(ホーク)?”を食った鳥人間。
ウィンはサイファーポールＮｏ.９(ナンバーナイン)に入っていたが、ある時脱け出しお尋ね者になる。
そして海賊になるという話。

「六式(ろくしき)」が使えて「トリトリの実」を食っているという。
見ての通り俺の夢を詰め込んだ感じの話だ。
あらすじ的なものは思いついたけど、
それから先が思いつかないんだよなぁ。
この後どうすっかな・・・・・・・・・

「寝るか。」

そして俺はベッドに寝っころがり眠りについた。

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

夢の中

抽選会場のようだ。

ガラ　ガラ　ガラ　　ポロ

「おめでとう御座います。

抽選結果は翼さんに決まりました。
貴方は常識的に考えたら普通は叶わない様な夢を一つ叶える権利を得ました。
どうぞ有効にお使い下さい。」

俺は気付いた時にはこう答えていた。

「じゃあ、ウィンになってみたい。」

「かしこまりました。」

乗った船は・・・

目が覚めると俺は知らない場所にいた。
少し揺れているから地震かと思ったら船の上のようだ。
それともう一つ俺の体はボロボロだった。

ガタン！！

後ろから人影。

「ん！？」

どすっ！！

「うっ！！」

しまった首に手刀を入れらｒ

・・・ばたッ

「・・・」

その男は無言でウィンを運んで行った。

数年後

え?早い?んなこと言ったら漫画だってそうだろうよ。
まァ何があったかは、お楽しみで。

俺は今、“偉大なる航路(グランドライン)航海?を航海している。と言うか迷子だ。
因みにもうどこまで行ってるのか知らないが原作は開始している。
まァだからこうやって海に出たんだけども。
あっ重要な事を忘れてた、俺は今女だ。
目が覚めたら女になってた。
でもそのおかげで追われずに済んでいる。
名前もウィンから前世?の名前、ツバサに変えた。

「で、どうするかな?」

この状況。

「ん？なんだ！急に暗く」

ガゴンっ！！！

「うわァデカい船？潰される！！」

バキっ！！！

「うわァー！！」

海賊船の上に、この船の船長と思われる男が１人。

「フェッ　フェッ　フェッ。」

ガゴンっ！！！

「ん？」

バキっ！！！

「何だ？」

「うわァー！！」

「人の悲鳴？おまえ見てこい。」

「ウオ！！まかせとけ！！」

ザバーン！！

そう答えた魚人の男は海に跳び込んだ。

「ん、此処は？」

「フェッ　フェッ　フェッ　目覚めたか？
此処はフォクシー海賊団の船の上だ。」

「あんた誰？」

「おれの名はフォクシー！！この船の船長だ。」

「俺はツバサ、助けてくれてありがとう。」

「礼はいらねェ、お前おれの仲間にならねェｋ「いやだ。」

ずー　・・ん

「・・・・・・そんなに即答しなくても・・・」

「オヤビーン!!海賊船だ!!」

「ホントか!?　フェッ　フェッ　フェッ。」

そうするとフォクシーは出ていった。

「まさかフォクシーにお世話になるとは・・」

しばらくして

ドン　ドォーン!!

「始まったか。」

ツバサは窓から様子を確認する。

“キバガエル海賊団??と言うことはこの後ルフィ達と戦うんじゃ・・・

「よっしゃー!!ラッキー!!!」

ガチャ

「お前見にいかないのか?試合始まるぞ。」

「おお、見に行く!!」

がや　がや　わー

「ホントにお祭り騒ぎだな。」

「おい其処の兄(にい)ちゃん、焼きそば食わねぇか?」

「食べる食べる!!幾ら?」

言ってなかったけど服装は男物でさらし巻いている。

試合終了後

「フェッ　フェッ　フェッ、今回も楽勝だったな。」

「いやん　オヤビンかっこよかったですよ。」

「そうか?フェッ　フェッ　フェッ、ん?」

あ、気付かれた。

「よォ、考え直してくれt「全然。」

ずー・・ん

「・・・・・また即答・・・」

「オヤビン!!コラお前っオヤビンは傷つきやすいんだ!!」

フォクシーのことを宥めながら怒ってくるポルチェ。

「ぷぷぷっ!!ぷぷぷぷ!!」

口を押さえて笑うハンバーグ。

何時ものことなんだな。

ん！？

「あっあれ。」

ツバサの指指す先には・・・

「おお、海賊船じゃねェか。」

しかも麦わら海賊団の・・・

「フェッ　フェッ　フェッ、今日はゲーム三昧だな。」

デービーバックファイト　麦わらの一味

ドン　ドォーン！！

「ゲームを」

ウオォォオオ！！！

「受諾した～～～ァ！！！」

あ、始まった。

「見に行くか。」

「さーて野郎共っ！！騒いじゃいやん！！！」

わー　わー

「“敗戦における3か条?を今から宣誓するわよ！！」

長いので以下省略。

一回戦「ドーナツレース」

「レディ〜〜〜イ」

パァァ・・ン！！！

「ドーナツ！！！」

ドドドドドォン

うわっ始まったよ、お邪魔攻撃。
相変わらずせこいな。

数十分後

「勝者！！！キューティワゴン号！！！」

「デイビーバックファイト一回戦を制したのは！！！
我らがアイドルポルチェちゃ〜〜〜ん！！！」

やっぱノロノロビームせこいな、
なんか結果分かってても応援しちゃうね。

いやァゾロかっこいい。
「男なら・・・・・！！！
フンドシ絞めて、勝負を黙って見届けろ！！！」

だって男でも惚れちゃうね。て、いま俺女だった。

「ゲームを制したのはなんと・・・！！！
麦わらのルフィ～～～！！！」

三回戦終了したな？
さて原作介入だァ！！！

「ルールだ、さァ早ェトコ選べ！！！
誰が欲しいんだ！！！」

「海賊旗をくれ！！！」

「待って！！」

「ん？お前誰だ？」

「俺はツバサ、連れてってくれないか！！！」

「いいぞ。」

「うぉアッサリＯＫするのかよ！！」

確かにウソップ正しい。

「何か気に入った。」

「えーっ！！お前、おれの所には入らねェのｋ「うん。」

ずー・・ん

「・・・・・また即答・・・」

「ぷぷぷ。」

「勝者！！“麦わらの一味？！！！
デービーバックファイトこれにて閉会～～～～！！！」

わぁあぁぁぁあああ！！

デービーバックファイト　麦わらの一味（後書き）

こんな入り方です。
すいません。

青キジ登場

「ーやっぱお前ら・・・
今死んどくか。」ドン！！

「！！！？」

俺たちは今海軍本部“大将？青キジと向き合っている。

そうだった、もうエニエスロビー編じゃん。

ブチブチ！！

青キジは近くの草を抜くと、

ガキィ・・ン！！！

「“アイスサーベル？」

能力で氷の剣に変えた。

「命取る気はなかったが・・・」

「・・・・・！！！！」

青キジはロビンを切りつけようとするが、
それをゾロが受け止めた。

ギィィ・・ン！！！

「！！！」

ばっ！！「“切肉（スライス）？」

其処へサンジが、
「“シュート？」
蹴りを加えサーベルを手から放させた。
そしてルフィが突っ込んで来る。
「“ゴムゴムの？ォ」

その時サンジとゾロが掴まれ、
！！？「ウ！！！」「ん！！！」

「“銃弾（ブレット）？ォ！！！！」

「冷た！！」

パキ　パキ　パキ・・・腕や足を凍らされてしまった。
「うわ！！」

「ぐあァ！！！」

「おあああああっ！！！」

これが海軍本部“大将？の力か・・・
やっぱり生で見るとスゲェな。

がばっ！！！
「ロビン！！危ねェぞ逃げろォ！！！」

パキパキ・・

「ロビンちゃん！！！！！」

パキン！！

「・・・・・！！！！」

「うわあああロビ～ン！！！」

ドンッ！其処には凍らされたロビンが・・・

「お前ェ～っ！！！！！」

「わめくな・・・ちゃんと解凍すりゃまだ生きてる。

ただし・・・体は割れ易くなってるんで気をつけろ、割れりゃ死ぬ。

」

「例えばこういう風に砕いちまうと・・・・・」すぅ・・・

そう言いながら青キジは拳をふりかざす。

「ウゥ！！！やめろ！！！」

「ロビン！！！！！」

ブンッ！！！　スカッ

「・・・・・！！！！」

「ハァ・・・あ・・・・・危ねェ！！」

間一髪でルフィがロビンを抱いて避けた。

ザッ・・・「！！」

安心していられるのもつかの間、青キジの足が迫る。

ばっ！！　ぐしゃ！！！
「ぐへ！！！！」
どどど「ギャーギャー！！」どどどど
間一髪で今度はウソップが抱き抱えて逃げ、代わりにルフィが踏まれた。
「・・・・！！」

「ウソップ！！！チョッパー！！！
そのまま船に走れ！！！
手当てしてロビンを助けろ！！！」

「「わ！！わかった」」

「行くぞ！！」

「待って！！」

「何だよ今急いでるｎ　　！？」
「俺に乗れ！！」
其処には鷹がいた。

「お前、能力者だったのか！？」

「そんな事はどうでもいい、早く乗れ！！」

「お！！おうっ！！！」

「お陰さまで・・・・・
だいぶいいわ・・・ありがとう船医さん」

「そんな・・・嬉しくねーぞコノヤロー」

「嬉しそうだな。
そういやァロビン、ツバサが此処まで運んでくれたんだぜ。」

「そうだったの、ありがとうツバサさん。」

「そうだったのかァ!!」

「そういやァルフィ、コイツ能力者だったんだぜ!!
“トリトリの実の?鳥人間!!」

「そうだったのか!!すんげェ!!!!」

「まあね。」

「ロビンちゃん、何か・・・体のあったまるもん作ろうか!!
食欲はあるか?」

「・・・じゃあ
コーヒーを頂ける?」

「喜んで~
ツバサちゃんもなんか食べるか?」

流石だな、サンジ俺のこと女だって気付いてるよ。

「別にいいよ。」

「ん?珍しいな、お前がナミとロビン以外にサービスするの。」

「うるせェマリモ、レディにはサービスするのが礼儀だ。」

「「「「え?えええええ!?」」」」

「「「「女だったのか!!!!!」」」」

「うん。」

「みんな気がつかなかったのか?」

「「「「全然」」」」

「チョッパーも気付いてたの?」

「うんにおいで。」

バシャ　バシャ　バシャ

「・・・・んん??」

「何だありゃ・・・」

ゾロが何か見付けたみたいだ。

「ん?」

「カエルだ！！巨大カエルだ・・・！！！」

青キジ登場（後書き）

丸写しみたいになってしまった。
介入するの難しい。
しばらくこんなの続くかも。

キャラクター紹介（前書き）

1日で３０００ＰＶ驚きです

キャラクター紹介

翼（つばさ）
身長１６９ｃｍ
この物語の主人公。
自分の書こうとしていた小説の世界の主人公になってしまった。
原作知識はエニエスロビーまで。

ウィン（男）
身長１８６ｃｍ

ツバサ（女）
身長１７２ｃｍ

主人公の書こうとしていた小説の主人公。
元ＣＰ９の「六式（ろくしき）」使いで、
「トリトリの実」モデル“鷹（ホーク）？を食べた鳥人間。
ＣＰ９から脱け出し逃走していた。
命からがら逃げて乗った船で気を失ってしまう。
目が覚め起きて見ると自分は女になっていた。
それを逆手にとり名前をウィンからツバサに変え生活する。

“水の都?ウォーターセブン

「カエルだ!!!巨大カエルだ・・・・!!!」
「クロールで海を渡ってるぞ!!!」
「あんなに急いでどこ行くんだ!!?」
「追うぞ野郎共!!!」

カエルが向かって行ったのは、
「ん?あれは・・・灯台・・・・!?」

シフト駅（ステーション）

建物から女の子が出て来た。
「あ!!
大変だ!!ばーちゃんばーちゃん海賊だよ!!!」

今度はおばあさんとウサギ?が出て来た。
「何!!?本当かチムニー!!!
よーひちょっと待ってりゃ。」

おばあさんは電伝虫を持って来た。
「あー・・・!!もひもひ!!?
え〜〜と!!・・・・・!!何らっけ!?
忘れまひた!!!ウィ〜〜ッ!!」

「「酔っぱらいかよっ!!!」」

酔っぱらいのおばあさんココロさんの話によると此処は海列車のシフト駅（ステーション）で、
ココロさんはここの駅長をしてるらしい。
この先にあるウォーターセブンには世界最高の船大工達がいるらしい。

「・・・よーし決めた!!!
そこ行って必ず“船大工?を仲間にするぞ!!!」どん!!

「ほいじゃあコレな!!
簡単な島の地図と“紹介状?」

「じゃ行くわ!
色々教えてくれてありがとうココロさん、チムニー!!」

ルフィ達は、新たな仲間を引き込むべく、
“水の都?ウォーターセブンを目指す。

「おいアレじゃねェのか?」
「島だ〜っ!!!島が見えたぞ〜っ!!!」

「うお！！」
「素敵。」
「うおお～っ！！！」

どーん！！

「何だこりゃ～！！！でっっっけ～噴水だ！！！」
はーーーっ！！

「うは～！！こりゃすげー。
まさに産業都市！！」

「港はどこかしら・・・・・・。」

「あ、俺知ってるよ。」

「ツバサ知ってるの！？」

「「「「なら早く言えよ！！！」」」」

「悪い悪い。
あ、俺ら海賊だから裏町の岬のほうがいいかも。」

「ありがとう助かったわ。
ツバサは此処に来た事があるの？」

「うん、てか住んでた。」

「へぇー。」

あ、言い忘れてたけど、この体の記憶はあるよ。
それと翼(おれ)自身の持ってる原作知識はエニエスロビー編までしかない。
その後はあまり知らない。

「「よし!!ほんじゃ行ってきます!!」」
ぴぅ!!

「待ってルフィ!!ウソップ!!
あんた達私についてきてよっ!!」

「どこに?」

「ーまずはココロさんの紹介状を持って“アイスバーグ?という人を探すの、
ツバサも来てくれる?」

「ん?いいよ。」

「よし!!じゃあまァとにかく!!行こう“水の都?!!!」どーん!!

「・・・んん?ここだけ?町への入り口。」

「“貸しブル屋??何だ?」

じーーーっ！！
急に俺の方を見てくる3人。

「えっ！？俺！？
あっ“貸しブル屋？っていうのは、ブルを貸してくれるとこで、
ブルって言うのは海の馬みたいなもんで、
ここは水路が多いから住人にとっちゃかかせない乗り物なんだ。」

「「「へぇー。」」」

「じゃあ俺達も借りようぜ！！」

「そうね。」

「すいませーん、ブル貸してください！！！」

「いらっしゃいブルだね？何人だい？」

「4人！！」

「4人なら“ヤガラ？2匹でいいね。」

「荷物乗っけるから3匹のほうがいいんじゃねェか？」

「ん？いいよ俺飛ぶから。」

「そっかじゃ2匹で。」

ザザァーッ！！！

「うおう！！よし行けヤガラ！！」

「ニーッ！！」

今俺達は黄金を換金して造船所に着た。

「はっきり言うがお前達の船は、
わしらの腕でももう直せん・・・・・・！！」

「メリー号が直せねェって！！？何でだ！！！」

ん！？あれ？ウソップがいない、フランキー一家かな？

ん?話が一段落着いたようだ。

「ん?」

ルフィが何か気付いたようだ。

「何?」

「軽い・・・」

そういってトランクを持ち上げる

「? どうして?

冗談やめてよ!!大金が入ってて軽い訳が・・・」

「「ギャ〜〜〜〜ッ!!!」」

「2億Bないっ!!!」

「ウソップもいないよ!!!

フランキー一家の仕業なんじゃ!!!」

「ルフィ急いで探すのよ!!」

「おう!!!」

ダーーーッ!!

「ねェ!!フランキー一家ってアジトはどこ!!?」

ナミはパウリーに聞いた。

「お前らが船停めてるっていう、

“岩場の岬?からずっと北東へ行った海岸にある「フランキーハウ

ス」だ。」

「ありがとう!!!行こうナミ!!」

ざわざわ

「！　人集り・・・・」

「あれウソップじゃない!?」

「え・・・
ウソップ!!!」

人集りの中に倒れていたのはウソップだった。

「ウソップ!!やったのはフランキー一家なの!?
あいつら!!?」

「そうだ・・・俺が弱ェもんで・・・!!!」

「俺、皆に知らせてくる。」

「お願い!!」

バサッ

ツバサは鷹になり飛び立った。

G・M（ゴーイング・メリー）号

「みんなー！！」

G・M（ゴーイング・メリー）号にむかってツバサが走って来る。

「あれれ！？ツバサが帰って来たぞ！！」

「ツバサちゃ～ん何かあったのか～！！？」

「みんな！！大変なんだ！！
ウソップが！！」

水路

ツバサ達はウソップが倒れていた場所にきた。

「あれっ？ウソップがいない！！」

「場所が違ェんじゃねェか？」

「うるせェよマリモ！！」

「いやここのはず！！」

「見て血だ。」

チョッパーが血の跡を発見した。

「勝手に移動したのかも。」

あああああああ「？」

空から何か降ってくる。

「あああああああああ」ガン！！

ボチャン！！

「ルフィ！！？」

「何やってんだてめェ！！」

「あ！！そうだお前ら大変なんだウソップが。」

「知ってるよ！！！来い！！

今そのアジトへ向かう所だ。」

「早く行こう！！」

“水の都?ウォーターセブン（後書き）

感想待ってます

フランキー登場

フランキーハウス前

「ちょっと待ってろよ、ウソップ」

パキパキ！！

「あのフザけた家吹き飛ばして来るからよ・・・・・・！！！」ドン

今俺達は、また返り討ちにされてしまったウソップの仇を取りに来た。

「“パーティーテーブルキックコース？！！！」

ドガガガガ！！

「ギャー！！」

わあああぁあああぁああ

「やべェ！！！

ちょっとコイツらまじでヤベェぞ！！！」

「放て砲弾！！！！」

「・・・・“紙絵（カミエ）？（ボソ）」ヒラリ

すぅ・・・ドガーン！！！

「何だ！？当たんねェぞ！！？」

「“残像斬り？！！！」

指銃（シガン）を使うとややこしいからやめておく。

「消えた！！？ぐああ！！」

わぁあぁああ

俺らの攻撃によりフランキー一家はどんどん蹴散らされていく。

パキ・・パキ・・

「お前ら骨も残らねェと思え。」ドドンッ！！

あの後、ウソップは目を覚ましたけど、

原作通りメリーのことで決闘して一味から抜けた。

裏町の宿屋　屋上

「アイスのおっさんが・・・・・・・!?」
ルフィが聞くと
「ええ撃たれて今意識不明だって・・・!!」
ナミがそう答えた。
そうかもう暗殺未遂の事件かぁ
「ちょっと行ってみる」
そういうとルフィは乗っていた建物の屋根から飛び降りた。
「待ってルフィ、私も行くから。」
「俺も行くよ。」

1番ドック
「・・・・・すごい人望・・・
近づけそうにないわね。」
ズン♪　ズン♪　ズズズン♪
「?」

急に音楽が流れ始めた。

「出たー！！！」

「この島から出ていけー！！」

「しばり首だー！！！」

すごいブーイングの嵐の中、建物の屋根の上に現れたのは、
アロハシャツに海水パンツ一丁の変態。

「そうだ、おれは人呼んでワァオ！！！」

「んーっ！！！フランキーっ！！！！」ドドォーン！！！

「出て来い“ 麦わらァ？！！！」

「・・・・・・何だあの変態・・・」

「・・・・・・・！
フランキーって・・・言わなかった！！？」

「・・・・・・！！？
あいつが・・・・・・・！！！」

「おい！！！」「ルフィ！！」
ルフィがフランキーに向かって叫ぶ。
「？」

「海水パンツ！！！」

「あン！！？」ギロ・・

ザワ・・・

「おれがルフィだ。」ドン！！！

「お前かァ・・・“麦わらのルフィ？ってのァ。人の留守中に、えらく大暴れしてくれたじゃないの、お兄ちゃん・・・！！！」ゴオオオオオオ

「ナミ、ルフィが喧嘩始めると思うからここから離れよう。」

「そうね。」

ツバサはナミを乗せてその場を離れた。

「“ストロング右（ライト）？！！！」

ボウン！！！

「！！？」

フランキーのパンチが、

肘から下のちょうど真ん中らへんから外れ、

鎖が伸びて飛んだ。

ドゴン！！！
そのパンチは見事命中し、ルフィを吹き飛ばした。

「何！？」
驚くナミ、それにしてもすごいな“改造人間（サイボーグ）？。

ジャララ・・
伸びたフランキーの腕が戻っていく。ガシン・・

ボコ・・・　どさっ！！

「「ルフィ！！」」

「何今の！！」

「腕が外れてた。」

「・・・・あァ、知らなかったのかい・・・お姉ちゃん達。」

右腕を左手で伸ばしながら話す。

「じゃあ教えとこうか・・・
おれは“改造人間（サイボーグ）？だ！！！」ドン！！

襲撃犯

1番ドック

フランキーとルフィのケンカをしている所に、
ガレーラカンパニーが割り込んで来た。

「くだらねェマネしてくれたな。」

「？」

「身に覚えがあるだろう・・・！？
よくまたここへ顔を出せたもんだ。」
パウリーが聞いてくる。

「・・・・・・・何で？
俺たちおっさんのニュース聞いて・・・」

「とぼけるんなら・・・・・・
締めあげるまでだっ！！！」ばっ！！
シュルルルル！！！「うわっ！！！」
「R（ロープアクション）・A“ハーフノット？！！！」
袖から出てきたロープはルフィの首に巻き付いた。
「ウェエッ！！苦しィ・・・苦・・・・・・！！！」

「“エア・ドライブ？！！！」
投げ飛ばされるルフィ。
「ぶへ！！！」ドゴォン！！

「やっちまえー!!ガレーラカンパニー!!!」
わぁあああぁああ
「社員最強の5人のケンカだっ!!!」
わー　わー
「え??何で??何で船大工もみんな敵なの!?」
ザザァッ　ドドゥン
「何か誤解されてるのかも。」
ガ　ガ　ガ　ガシャン!!

ボコォン!!
「くそォー!!
何なんだ理由くらい言えェ!!!」

「理由を知りてェのは俺たちの方だ・・・!!!」

「昨夜　本社に侵入して、
アイスバーグさんを襲撃した犯人はお前らだろうが!!!!」

「?　何それ。」

「ばか言え何で俺達がそんな事するんだ!!!」
怒鳴るルフィ。
「“犯人?を二人憶えているとアイスバーグさんが証言したんだ。
政府に聞きゃあお前らの仲間だと言うじゃねェか・・・
“ニコ・ロビン?って賞金首はよ!!!」

「捕まえろォ！！！暗殺者共を逃がすなァ～！！！」

「やめてよ！！
放してってば、私達が何したっていうのよ」

「とぼけるな、暗殺者の一味め！！！
よくもアイスバーグさんを撃ちやがったな！！！
逃がさんぞ！！！」

「ナミ！！！」がしっ！！「あっ！！！」
ツバサはナミを助けようとしたが捕まってしまった。

「くそぉ！！
おい！！やめろお前らァ！！！
おれ達はなんもしてねェ」

「いつまでも言いはってるがいい。
観念しろ、海賊。」

「ぶっ潰せ！！ガレーラカンパニー！！！」
わあぁあああ

「いえーい！！
アッハッハッハッハッハ！！」

ちゃぶだいでお茶を飲んでいるのはフランキーだ。

「気分爽快だわいな！」

「そうそうあんな奴ァ吹き飛ばしちまえばいいんだ！！
さすがはおれ達の誇り！！！
“ガレーラカンパニー？！！！」

「いやいやいや、
しかしお前、その麦わらのチビは、
我がフランキー一家の憎っくき仇でよ！
まずこのケンカの先客はおれだったんだよ！
そこへきてお前ら、
おれの獲物を横取りする様なマネをすんなと・・・・・・・」

「何度言わすんじゃクラァ～ア！！！！」
おんどりゃああ！！！！ガシャァーン！！
そう言ってちゃぶだいを投げ飛ばした。

「コネクターセット・・・・・」ガチッ　ガチッ

「これでさっき巨大クレーンを倒したんだ！！！」

「クレーンを・・・・・？大砲か？」

「「やっちまえだわいなアニキ～～！！」」

ブオオ・・・！！！「なァに砲弾なんざ飛ばさねェよ
飛んでくのは・・・“空気の弾？
ただし・・・速度は風の領域を越える。」

「空気？」

「危険だ逃げろ～～～～！！！」

ぶくっ！！　ギリ・・ギリ・・

「アァア～～～～～～～っ！！！」

「“風来砲（クー・ド・ヴァン）？！！！！！」

「！！？」

ベ　コ　ォ　ン　！！！！

「うああァ～～っ！！！！」

吹き飛ばされる職人達。

「痛・・・っ！！！！！

何だ！！？

“風圧？に・・・激突されたみてェな・・・！！！！ハァ・・・・ハァ」

ガラ・・・

「作りかけのガレオンごと・・・！！！

1番ドックが崩壊したァ～～～っ！！！！」

「ナミ、ツバサ！！！！走れ！！！

何とかしてアイスのおっさんとこ行こう！！！！」

「おいみろ！！！“麦わら？が逃げるぞ！！！！」

がし!!「しっかり捕まってろ!!」
ぴょーん

「本気でいくの!?」

「あたり前だアイスのおっさんが、
何でロビンを犯人だと言ったのか直接聞いてくる。」

「慎重に行けよ。俺らは追われる身だ。」

「じゃ行って来る。」ぐいーー・・ん

「え・・・ちょっ・・・・・・・!!!!!」

バ　リ　ィ　ン!!!!「!!!?」
ルフィは窓から突っ込んで行った。

「あのバカ!!!!
ナミ、俺様子見て来る!!」

「お願い!!」

バサァ!!!!

アイスバーグの寝室

「昨夜　おれはニコ・ロビンをこの目で見た・・・・・・・・！！
彼女はお前の仲間・・・それが事実だ。」

「それは本当にロビンだったのか？」

ガチャ

「誰だ！！？」

「驚かせてすいません。ツバサと言います。」

「海賊小僧の仲間か？」

「はい。」

「何の用だ？」

「貴方を殺そうとしたのは、
俺達じゃありません。」

「そんな事か・・・口を開くな、お前の言葉にゃあ、もう力はない。」カチャ・・・
そう言って銃を構えた。
「貴方を襲ったのは、“ＣＰ９（シーピーナイン）?です。」
「それは噂だろう。“ＣＰ９（シーピーナイン）?なんてものは存在しない。」
「いいえ、噂ではありません。」
「何を根拠に・・・・」
「何故なら俺は・・・・・・元“ＣＰ９（シーピーナイン）?だからです。」
「なんだと!!?」
「何だ?そのＣＰなんたらってのは。」
ルフィが聞いてくる。
「“サイファーポール９（ナイン）?、
“正義?の名の元に政府対して非協力的な「市民」への・・・
「殺し」を許可されている、特別な９つ目の機関。」
「正義と名のつく殺しがあってたまるか!!!」
「奴らはきっと貴方の持っている“設計図?を狙っている。」
「何故それを知っている!!?」
「言ったでしょう俺は元“ＣＰ９（シーピーナイン）?だって。」

「元“ＣＰ９?何だったら誰が犯人なのか分かるんだろう?それとニコ・ロビンについてはどう言いわけする?」

「それを知って本人達の前で平然としていられますか?それとロビンについてですがそれは何とも・・・今、彼女は何処にいるのか、わかんないんです」

「・・・」

「じゃあこれで俺らは行きます。俺らが出たら壁をその銃で撃ってください。その方が誤魔化し易いです。ルフィ行くよ!!!」

カチャ

バサァ

「何の話だったんだ?全く分かんなかった。」

「ゴメン後で話すよ。あ、おーいナミー！！！」

「あんた達話長すぎ。
捕まったんじゃないかと心配したのよ！！！」

「「ゴメン。」」

「みんなを探そう、
何を聞いたかは後で話すよ。」

襲撃犯（後書き）

文才がァ！！！！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1436z/

ONE PIECEの世界に転生

2011年12月7日23時49分発行